

久保田城(矢留城, 葛根城, 秋田城) (市文化財, 百名城)

(秋田市千秋公園) (千秋公園)

久保田城（くぼたじょう）は、羽後国（旧出羽国）秋田郡久保田（現在の秋田県秋田市千秋公園近辺）にあった日本の城である。

概要

久保田藩主佐竹氏の居城である。矢留城、葛根城とも呼ばれる。江戸時代後期の公式文書では「秋田城」と書かれることも多かったが、古代に出羽国府が置かれた秋田城とは所在地ともに別の城であり、今日では「久保田城」の方が一般的である。

雄物川の支流仁別川左岸、程野村窪田にある神明山（しんめいやま、標高 40m）に築かれた平山城で、石垣は基底部に僅かにあるのみでその上に土塁を盛られており（鉢巻土手）、天守も持たず塁上に「出し御書院」と呼ばれる櫓座敷を建ててその代わりとし、他に 8 棟の櫓を建て並べていた。石垣が無いのは幕府に遠慮したためとも言われるが、佐竹氏の旧領常陸国を含む東国ではもともと石垣を用いない築城法が一般的であったため、石垣作りに精通した者が居なかったともされる（但し後に江戸城の修築を命じられた時、佐竹氏は石垣の普請も担当している）。いずれにせよ山川沼沢を巧みに利用し防御を図っており、水堀や円郭式城郭など西国の様式も採り入れられている。

1880 年（明治 13 年）の大火で城内の建造物はほぼ焼失しており、市街再建の過程で堀の多くも埋め立てられ、城下の中通を中心に秋田県初期の官庁街へと変貌した。現在、久保田城本丸のあった一帯は千秋公園となり、秋田県民会館や秋田市立中央図書館明德館、平野政吉美術館などが整備されている。建造物としては、前述の大火を逃れかつ解体も移築もされなかった御物頭御番所が現存し、本丸新兵具隅櫓（御隅櫓）、本丸表門が再建されている。

歴史・沿革

江戸時代以前

神明山には安東氏（秋田氏）配下の三浦氏（川尻氏）が所在し、氏神として総社大明神・神明宮・別宮攝末社を奉っていた。三浦氏の城は「鎗留ノ城」「矢留ノ城」と呼ばれ、久保田城の別名の由来となっている。また、神明山の名も神明宮に由来する。更に古くは、大嶽山・小嶽山・光明山の 3 つの頂がある様から三森山または三嶽山と呼ばれていた。

江戸時代

- 1602 年（慶長 7 年）9 月 17 日 - 久保田藩初代藩主である佐竹義宣、秋田氏の居城であった湊城に入城。
湊城は平城で防衛に向かないうえ、54 万石規模の家臣団を抱えていた佐竹氏にとって秋田氏 15 万石（公称は 5 万石、蔵入地 2 万 5000 石）の城は手狭であり、これが久保田城築城の理由となった。
- 1603 年（慶長 8 年）5 月 - 梶原政景と渋江政光を普請奉行とし、神明山に新城を築城開始。同時に城下町と徳川家康が推進していた主要道の整備も行う。
三森山神社は川尻村下浜（現在の櫓山川口境）へ遷座したが、低湿地のため神地には不向きで、1694 年（元禄 7 年）に川尻村上野岱へ再度遷座、1707 年（宝永 4 年）9 月 6 日に社殿造営し本遷宮。1912 年（明治 45 年）に 3 社を合祀し総社神社となった。
- 1604 年（慶長 9 年）8 月 28 日 - 窪田城本丸竣工。湊城を破却し窪田城を本城と定める。また、年内に他の藩へ通じる主要道が完成。
- 1607 年（慶長 12 年） - 内町の町割（第一期）が開始。三の丸と中通廓が新設される。外町の町割もこの頃開始されたと見られる。

- 1619 年（元和 5 年） - 内町の町割（第二期）が開始。中通廓が割直しされ、亀ノ町廓が新設される。
- 1629 年（寛永 6 年） - 内町の町割（第三期）が開始。檜山・保戸野・手形・川口の侍町が新設される。
- 1631 年（寛永 8 年） - 鍛冶町と馬口労町を結ぶ道を新設し、大町筋を通町から馬口労町まで貫通させる。街道（羽州街道）を茶町筋から大町筋へ変更する。
- 1633 年（寛永 10 年）9 月 21 日 - 本丸全焼。藩主義隆は三ノ丸下中城の渋江内膳邸を仮殿とする。
- 1635 年（寛永 12 年）12 月 15 日 - 修築。
- 1647 年（正保 4 年） - この年に描かれた「出羽一国絵図」にて初めて「久保田城」と表記された。「窪田城」から「久保田城」への改称時期は 1633 年（寛永 10 年）から 1645 年（正保 2 年）にかけてと推測されている。
- 1671 年（寛文 11 年） - 檜山愛宕下を町割。
- 1673 年（延宝元年） - 築地・長野下を町割。
- 1699 年（元禄 12 年） - 手形東新町・手形西新町を町割。これ以降幕末まで城下町に大きな変化はない。
- 1776 年（安永 5 年）4 月 2 日 - 本町六丁目から出火し、穴門・西矢倉門（松下門）・東矢倉門（長坂門）・表門・本丸御殿・出し御書院まで延焼。
- 1778 年（安永 7 年）閏 7 月 10 日 - 本丸全焼。藩主義敦は三ノ丸下中城の渋江敦光邸を仮殿とする。
- 1781 年（天明元年）5 月 24 日 - 本丸御殿を修築。
- 1788 年（天明 8 年）12 月 24 日 - 焼失していた御用局（吟味役所）復旧の記録あり。
- 天明年間 - 表門付近で出火。
- 1797 年（寛政 9 年）5 月 10 日 - 本丸北方で出火し、北方多門長屋 1 棟 49 間、北方櫓 1 ヶ所（帶曲輪門上御隅櫓）、西方多門長屋 1 棟 12 間、西方櫓 1 ヶ所（新兵具御隅櫓）、北西方塀 25 間を焼失。

近代

- 1868 年（明治元年） - 戊辰戦争。久保田藩は新政府軍を支持したため庄内藩・盛岡藩から攻撃を受け（秋田戦争）、領内の大半が戦場となり特に庄内藩には城下 12km まで迫られたが、仙台藩・米沢藩の降伏を受けて庄内藩が撤退したため久保田城は戦禍を免れた。
- 1869 年（明治 2 年）6 月 17 日 - 版籍奉還。城地は兵部省（後に陸軍省）の管轄となる。
- 1870 年（明治 3 年）
 - 1 月 7 日 - 藩庁を三ノ丸下中城の渋江内膳邸へ移す。
 - 11 月 - 三ノ丸上中城に藩知事義堯の官邸を移す。
- 1871 年（明治 4 年）
 - 1 月 13 日 - 久保田藩を秋田藩、城下の久保田町を秋田町と改称。
 - 7 月 14 日 - 廃藩置県。
- 1872 年（明治 5 年）
 - 3 月 13 日 - 本丸に秋田県庁を開庁。
 - 11 月 12 日 - 秋田県庁が東根小屋町の旧明德館へ移転。
- 1873 年（明治 6 年）1 月 14 日 - 全国城郭存廃ノ処分並兵営地等撰定方により存城処分となる。
- 1880 年（明治 13 年）7 月 21 日 - 大火により城内の建物がほぼ全焼する。

日付は19日説・20日説もあるが、秋田県が22日付で軍へ打った電報の起案書に「昨二十一日午後十時前、秋田旧城ヨリ出火……」とあることから21日が正しいとされる。

- 1886年（明治19年） - 4月30日の俵屋火事で焼失した寺町鱗勝院の山門として、裏門が払い下げられる。
- 1890年（明治23年） - 陸軍省から佐竹氏に城跡が払い下げられる。

城跡に整備された公園については「[千秋公園#歴史](#)」を参照

現代

- 1989年（平成元年） - 本丸新兵具隅櫓（御隅櫓）を復元。
- 2001年（平成13年） - 本丸表門を復元。
- 2004年（平成16年） - 秋田市建都四百年記念祭が挙行。
- 2006年（平成18年）4月6日 - 日本100名城（9番）に選定される。

構造

神明山の最高所を均して本丸とし、ここに藩主の居館である本丸御殿と政務所が置かれた。周囲を多聞長屋と板塀で取り囲み、表門・裏門・帯曲輪門・埋門・切戸口という5箇所（箇所）の出入口が設けられた。表門は一ノ門ともいい、更に二の丸へ通じる手前に長坂門（二ノ門）があった。南西隅で岬のように突出した最高所の土地を「出し」と呼び、「出し御書院」という櫓座敷が設けられた。

本丸東側の一段低い土地を二の丸とし、勘定所・境目方役所・祈祷所安楽院・時鐘・金蔵・厩などが置かれた。外部からの出入りは全て二の丸に集まるようになっており、松下門・黒門・厩門（不浄門）・土門（北御門）という4箇所（箇所）の出入口が設けられた。それぞれ下中城、上中城、山ノ手、八幡山に通じる。現在は松下門跡が千秋公園の正面入口となっているが、藩政期の正式な登城の道は黒門を経由するものだった。

二の丸の北・東・南を取り囲むように三の丸があり、重臣屋敷が置かれた。東部を上中城、南部を下中城、北東部を山ノ手（手形上町）という。山ノ手の西（本丸の北西）にある八幡山も三の丸に含まれるが、重臣屋敷ではなく小八幡社・稻荷社・別当寺金乗院が置かれた。

八幡山の更に北側には北の丸があり、大木屋と刳蔵が置かれた。また、本丸西側で内外堀に挟まれ島状になった西曲輪（捨曲輪）には、兵具蔵が置かれた。

本丸・二の丸を内堀で囲み（西兵具蔵前堀・南堀・東堀・北堀）、三の丸を外堀で囲んだ（八幡宮後堀・西兵具蔵外堀・東外堀・南外堀）。その他も北の丸の周囲（北の丸下堀・北の丸下北の方堀）、中通廊と亀の町廓・長野下の間（大堀）、亀の町廓と築地の間（上堀）、亀の町廓と櫓山の間（下堀）などに堀が設けられた。堀の多くは旭川の旧河道である。現在ではほとんど埋め立てられ、現存するものは南堀の一部、東堀の一部、西兵具蔵外堀の一部（穴門堀）、南外堀の一部（大手門堀）のみとなっている。

城の直接的な機能を持つ本丸・二の丸・北の丸・西曲輪を総じて「一の廓」、重臣屋敷が設けられた三の丸を「二の廓」、同じく重臣・高禄の家臣の屋敷町となった中通を「三の廓」、それに続く亀の町を「四の廓」と呼び、土手・堀を持たないその他の侍町を「外廓」と呼んだ。但しこの分類は時期によって変遷がみられる。

一門や重臣の屋敷が丸の内から広小路や長野町・古川堀反町など本丸に近い町に配置され、櫓山や保戸野など離れたところには主に小録の家臣が配置された（但し門の近くなど重要な場所には重臣が置かれた）。侍町を総じて「内町」と称した。

町人町は「外町」（とまち）と呼ばれ、城の西側に旭川を挟んで配置された。内町は防衛のため屈曲・食い違いの多い道路線形になっているが、外町は交通の利便のため碁盤の目状に区画されている。

外町の更に西側へ寺院が集中的に設置された。

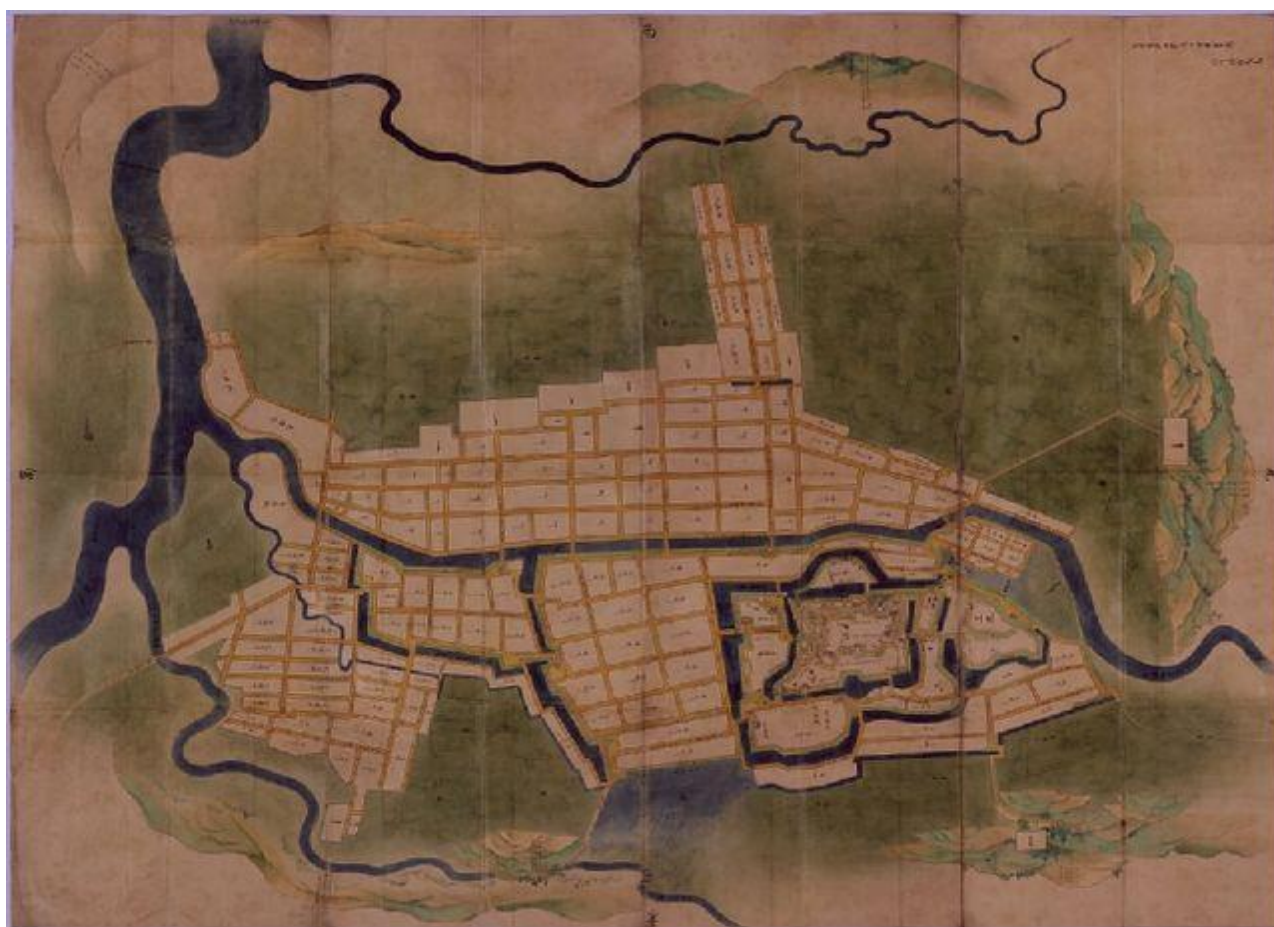
Wikipediaによる



久保田城御隅櫓（復元）



久保田城復元本丸表門



『正保城絵図』より「出羽国秋田郡久保田城画図」